

鳥取県の移住促進に係る取組について

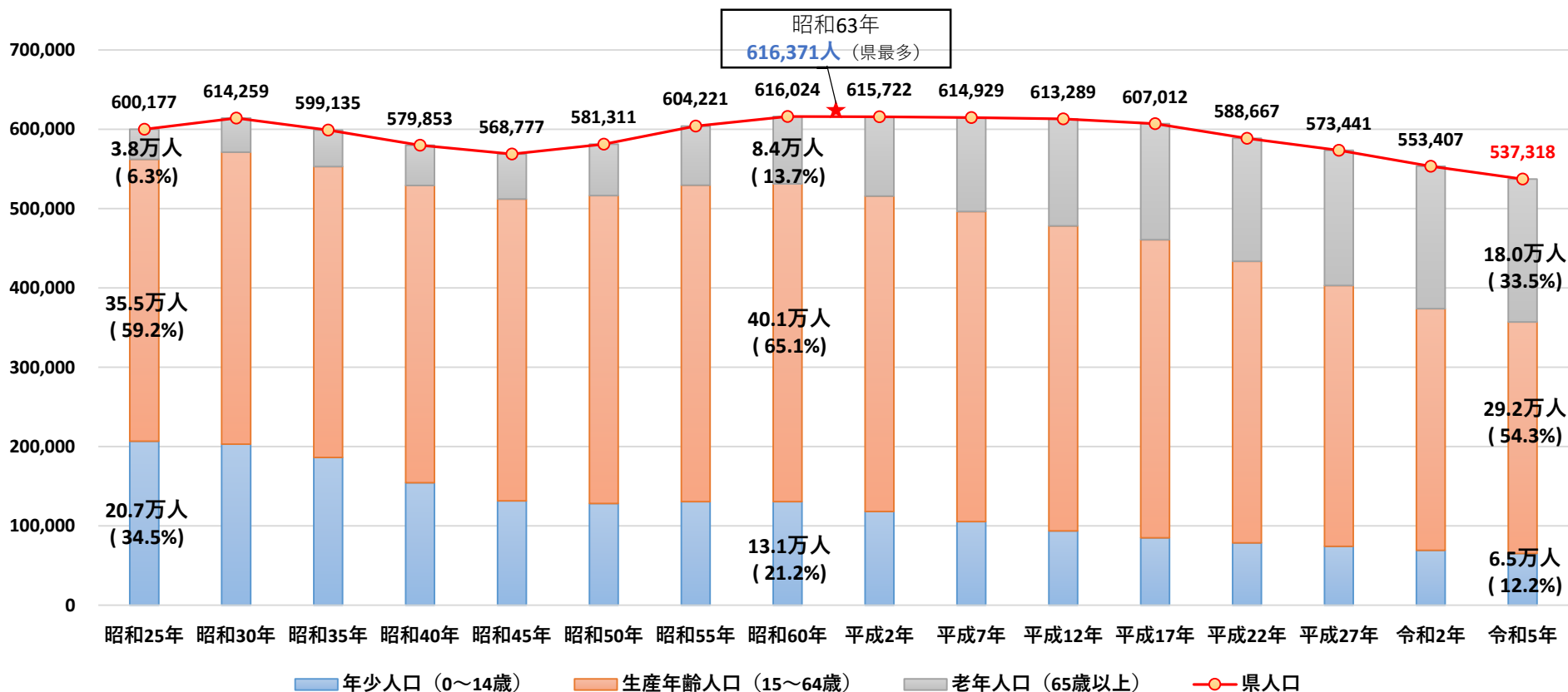
令和6年3月

輝く鳥取創造本部中山間・地域振興局人口減少社会対策課

鳥取県の人口

- 鳥取県の推計人口は、537,318人（令和5年10月1日時点）
- 人口が最多だった1988年(昭和63年)と比べて79,053人減少
- 2023年（令和5年）の1年間では、6,293人減少
（自然減…4,980人、社会減…1,313人）

年齢3区分別の人口の推移（鳥取県）



年間移住者数の推移

目標：年間移住者数3,000人

主な取組

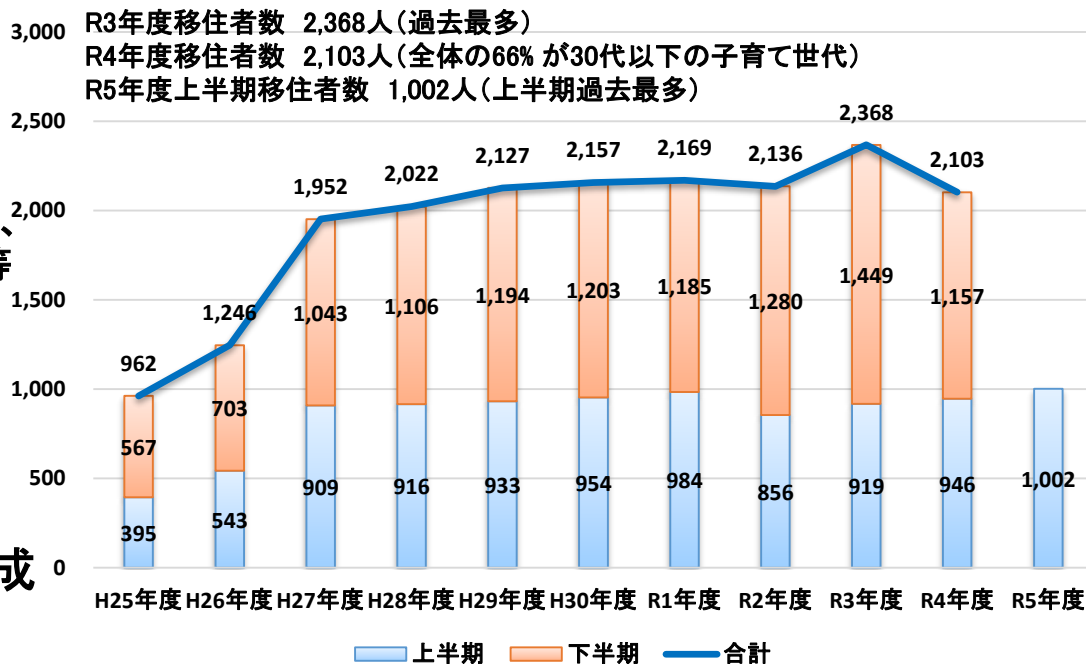
○相談・情報発信体制の充実

- ・移住定住サポートセンターの設置
(移住コーディネーター(R5年度～2名増員)、住宅相談員、ファイナンシャルプランナー等の専門職を東京、関西、県内に配置)
- ・移住相談会の開催(東京・大阪等)
- ・若者目線の情報発信強化

○受入支援体制の強化

- ・移住希望者への来県時交通費助成(R5年度:131件)
- ・鳥取県移住体験ツアーの開催
- ・移住定住推進交付金
(空き家改修やお試し住宅の設置、移住者受入地域組織への支援等)
- ・新しいライフステージ支援補助金
(結婚や出産の機会に「鳥取で暮らす」ことを選択するIJUターンを後押しするための補助金)
- ・とっとり暮らしアドバイザーの設置
(地域情報の提供、子育てアドバイス等)

⇒ **移住者目線で支援を拡充**



○移住先として高評価！

住みたい田舎ベストランキング

- ・琴浦町総合1位(1～2万人のまち)
- ・智頭町総合6位(1万人未満のまち)
- ・倉吉市総合10位(3～5万人の市)

(2024年版:宝島社『田舎暮らしの本』2月号)

全国住みよさランキング(中四国ブロック)

- ・倉吉市総合1位

(2023年版:都市データパック(東洋経済新報社))



移住につながる「新しい働き方」の推進

新しい働き方 **ワーケーション** をさらに進化
○親子ぐるみの関係人口創出！

ファミリーワーケーションの推進

- ・令和3年度以降、県内5地域で9プログラムが実施され延べ35家族101人が参加。
- ・令和3～4年度は、**約6割が再訪しておりリピート率が高い** ⇒ **子育て世代の移住へ**



5家族18人が参加した大山シーサイドワーケーション (R4.10月)

長期滞在トライアルプログラム

- 【場 所】智頭町
- 【期 間】令和5年3月4日～12日(8泊9日)
- 【参加者】4家族13名
- 【内 容】雪遊び、森の中でご飯作りなど



梨の収穫と地元遊び体験

- 【場 所】湯梨浜町・北栄町
- 【期 間】令和5年10月28日～30日(2泊3日)
- 【参加者】2家族7名
- 【内 容】王秋梨収穫体験、ドラゴンカヌーなど



新しい働き方「**兼業・副業**」を活用した「**転職なき移住**」などを推進

「ANA 地方創生プロジェクト」進行中！

- ・全日本空輸（株）の客室乗務員の新しい働き方として、地方空港地域での副業及び居住を推進。
- ・R3年12月～鳥取県と連携した地方居住プロジェクトにより**10名**が鳥取移住・兼業を実施。

兼業イメージ

鳥取県内の空港近隣に居住し、CA業務を行いながら県内企業での兼業を実施



CAの持つ接遇・語学等の知識を県内で発揮

- ・R5年度は、引き続き**4名**が居住し、**県内の様々な職場で活躍中**。
- ・うち1名は、鳥取県庁でとっとり暮らしの魅力をSNSで発信する「とっとりdiary」の企画を担当
- ・R6年2月から新たに**1名**が鳥取移住・兼業を開始 ⇒ **更に兼業・副業による「転職なき移住」を拡大**



若者目線の情報発信強化(とっとりdiary)

- ◆ 本県への若い移住者や県内の若者が、県内外の若者等が届く情報発信を行い、**年間移住者3,000人に向けて移住潜在層の掘り起こしと関係人口創出**を図る。
- 情報発信力のある県ゆかりの14名を**とっとりdiaryインフルエンサー**に任命 (R5.10.24) し、鳥取県庁で兼業する全日本空輸株式会社職員をリーダーに、「チームとっとりdiary」を結成。
 - 「チームとっとりdiary」はSNS (YouTube、Instagram等) により、とっとり暮らしの多様な魅力を発信。
 - とっとりdiaryインフルエンサーには、東京で活躍する本県出身のアイドル (フォロワー約2万人) も、多くのファンに向けて鳥取の魅力を精力的に発信。
- 県内で暮らす若者にも、ふるさとの魅力を再発見・発信してもらうため、学生だけを対象とした「とっとりdiaryがくせい部」を実施。

チームとっとりdiaryによるコラボ動画を制作
YouTubeで公開 (R5.12.28~) 視聴回数3,200回

とっとりdiaryインフルエンサー
(県出身アイドル: フォロワー2万人)
によるインスタ投稿

「とっとりdiaryがくせい部」
15~25歳の学生によるインスタ・Xへの投稿
(R6.2.14~3.13)

<学生から寄せられた主なコメント>

- 加藤紙店の前は高校時代の通学路で、
汽車待ちでたまに通ってました。店内に鯉の
池があるのが凄いですよね〜!
- 本日、倉吉駅から鳥取駅までスーパーはく
と名探偵コナン号に乗車してきました。
(略) 随分と時間が空いてしまいましたが、
本日念願の乗車でした!



Uターン就職に向けた県外大学との連携強化

- ◆ 県外大学等に進学した学生の本県へのUターン就職を促進するため、県外大学等との就職支援に係る連携協定を締結。(R6.3.1時点:41校(包括連携協定6校、就職支援協定35校))
- ◆ 連携協定締結校では、「とっとり就活応援交流会」や、就職コーディネーターによる学生個人へのきめ細かな就活支援を通じて、本県へのUターン就職を推進。

とっとり就活応援交流会



- 県内企業の若手社会人を就活サポーターに委嘱。(R5年度登録人数159人)
- 就職連携協定校等で行われる交流会に、大学等のOBであるサポーターを派遣し、鳥取の企業の魅力や自然環境、生活のやすさなどを学生に伝えてもらっている。(R5年度30回開催)

就職コーディネーターによる支援



- 就職連携協定校等が主催する就職セミナー・保護者会等に参加し、学生・保護者に対し、県内企業の就活に関する情報などを提供している。
- 本県企業への就職を目指す学生等に対しては、履歴書や応募企業に対して自己PRなどを記載するエントリーシートの作成アドバイスなどのきめ細かな支援を行っている。

バーチャルとっとりで交流拠点を構築

◆ 県外に進学・就職する若者に、鳥取とつながり続けてもらい、大学卒業後等のUターンなどにも繋げるためのスマートフォン専用交流アプリ「バーチャルとっとり」を令和6年3月末に公開予定。

- アプリ内では“アバター”と呼ばれる自分の分身を作成し、バーチャル空間上で様々なコミュニケーションを取ることができる。
- バーチャル空間内には、イベントスペース、広報スペース、コミュニティスペースなどの多彩な交流空間を準備し、若者の多様なニーズに対応できる。
- 3月にキックオフイベント「バーチャル同窓会（3/3）」「婚活イベント（3/20）」を開催。

＜多彩な交流スペース例＞



＜メインスペース＞（常設）

- ・24時間365日自由に入場可能
- ・ユーザーは鳥取県の各種情報等が収集できる空間。



＜イベントスペース＞（随時）

- ・1画面あたり最大50名が同時参加可
- ・若者企画のイベント開催など、自由度の高い空間



＜コミュニティルーム＞（常設）

- ・24時間365日自由に入場可能
- ・友人などと少人数（10名以内）でコミュニケーションが可能



＜特設スペース＞（随時）

- ・婚活イベントのような特別なイベント用に、雰囲気を変えた空間
- ・イベント内容に応じてデザインの変更が可能

■バーチャル同窓会（3/3開催）

- ・県内外の若者同士の交流、情報交換を行うことで、Uターンを促進する「バーチャル同窓会」を開催。
- ・参加者には事前に「とっりの食」を送付し、鳥取の食を味わい、鳥取への想いを馳せながら交流。

⇒都市部を中心に県外に暮らす若者も多数参加し、盛大に開催



■メタバースで婚活イベント

- ・アバターを介して出会うことで、より内面を重視したマッチングが可能。
- ・バーチャル空間なので県外にいなから参加が可能



※イメージ

➤ 「若者」をキーワードに移住定住の促進のため、県庁全体のUターン・定住につながる各種施策を取りまとめ、施策の一体的かつ効果的な実施を図るための新たな産学官連携組織「とっとり若者Uターン・定住戦略本部」を設置して、若者の県外流出防止とI J Uターンを促進。